

中古文学会関西西部会第六十二回例会 発表要旨

一 『源氏物語』における後院での成人儀礼について―女三宮・薫を中心に―

東京大学(院) 宮内理伽氏

『源氏物語』若菜上巻では父朱雀院の後院で女三宮の裳着が盛大に行われる。また、女三宮の息子薫の元服も匂兵部卿巻において冷泉院で行われる。しかしながら、内親王の裳着は通例、宮中から里第などで行われ、管見の限り後院で行う例は見られない。臣下の身分にある男子の元服も同様である。本発表では、裳着や元服の実態に関する歴史史料を調査した上で、歴史的な実態からやや離れた形で行われた、女三宮と薫を中心とする成人儀礼について、新たな解釈を提示することを目的とする。

二 『うつほ物語』の構造―「三条」に着目して―

大阪大学(院) 飯田実花氏

『うつほ物語』の邸第は「三条」に多い。このことは従来も指摘されてきたが、そこに住む人物やその移動に関する分析は少なく、「三条」に集まるということが物語のなかでどのような意味を持つものかは議論されてこなかった。本発表では、「三条」に邸第だけでなく登場人物までもが集まっていく様相を指摘することで、物語の舞台がどう設定されているかを分析し、『うつほ物語』の構造的な特徴を解明する端緒としたい。

三 『とはずがたり』という作品名―明石巻に学んだ『琵琶行』の自言―

京都女子大学(院) 北條暁子氏

後深草院二条の『とはずがたり』については、描写や人物造型において『源氏物語』に多くを学んだことが知られる。本発表は、日記文学でありながら物語的な『とはずがたり』の作品としての特質が、『源氏物語』に倣い『琵琶行』を撰取して獲得された可能性について、作品名を通して考察したい。その過程で、二条がなぜ遊女と美濃国赤坂で交流するか、なぜ鞆の浦で交流しても和歌に明石と詠むのか、描かれる地名の意義も検討する。